

経営比較分析表（令和5年度決算）

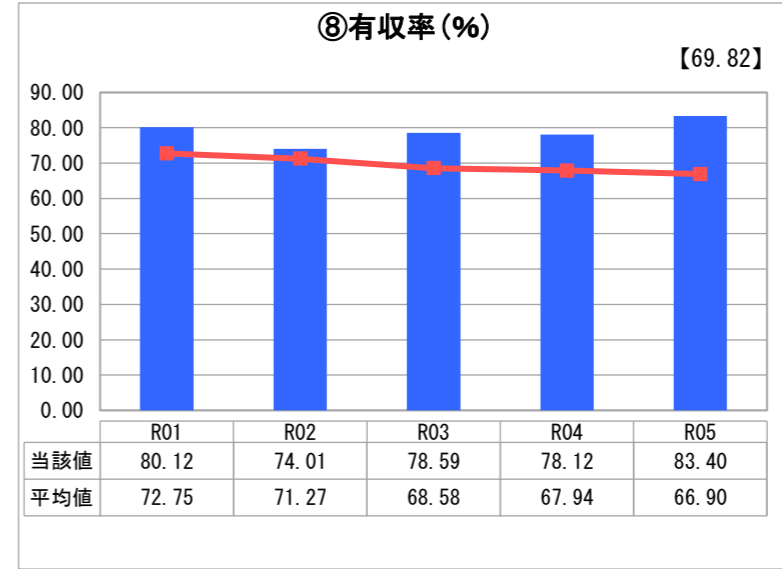
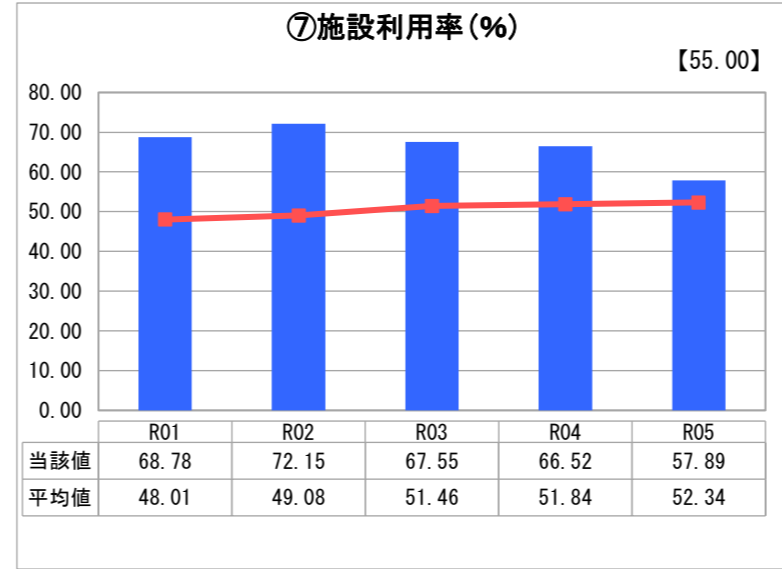
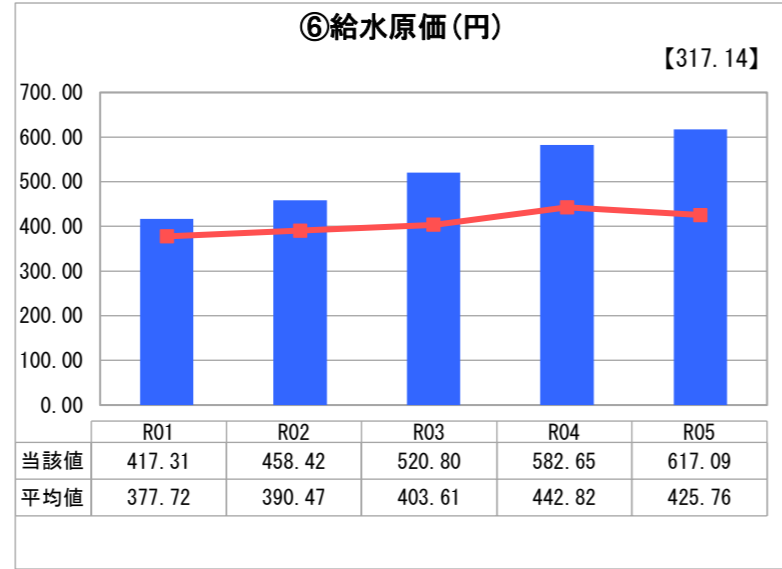
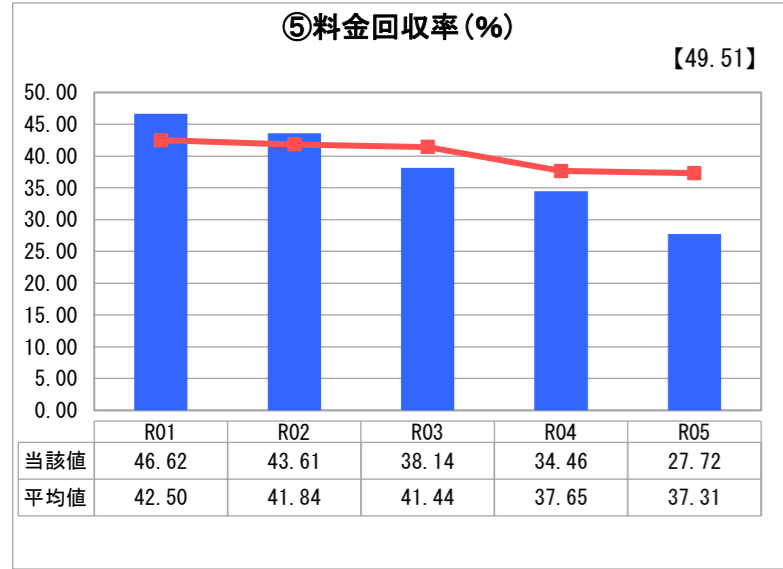
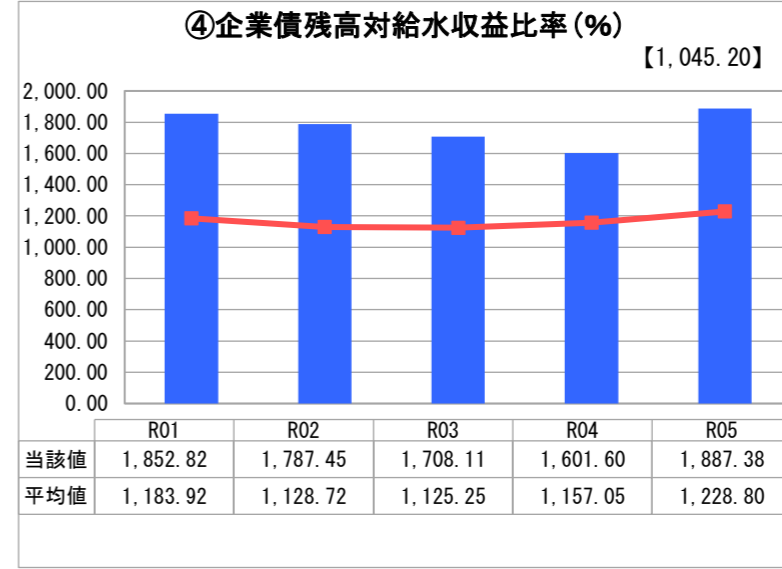
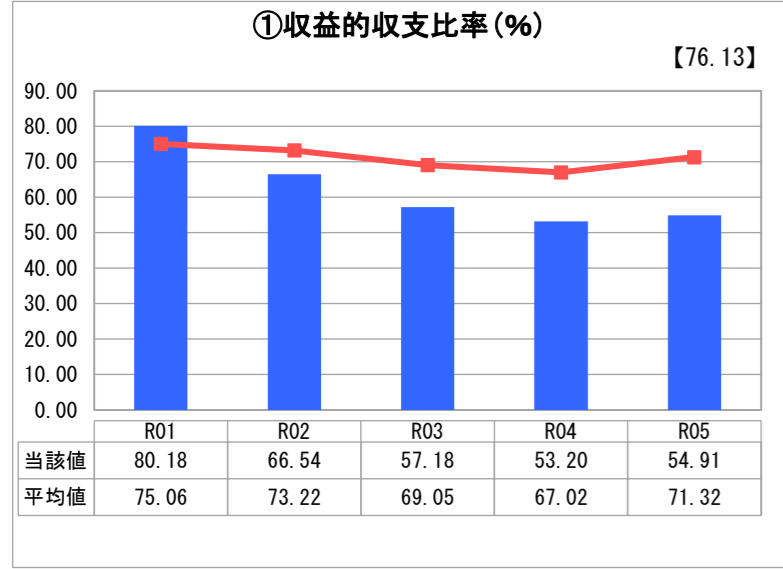
和歌山県 古座川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	36.74	3,212	

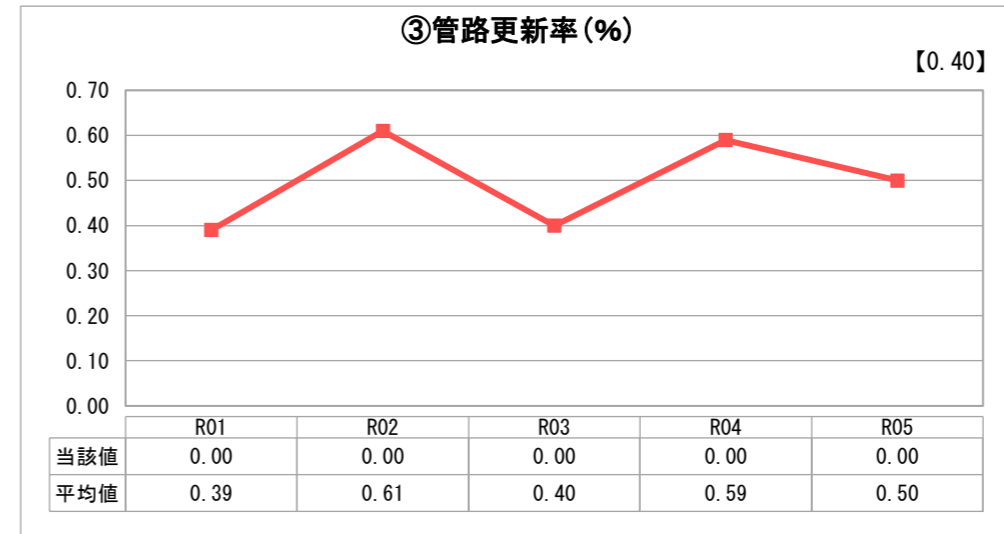
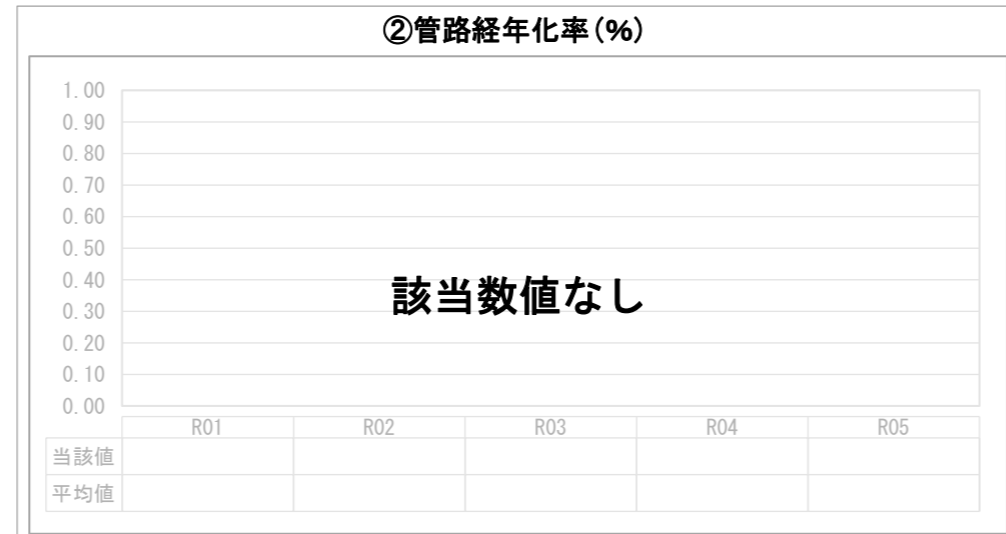
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,363	294.23	8.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
862	2.67	322.85

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
前年度とほぼ同水準となった。類似団体と比較して低い水準となっており、収益に関しても一般会計からの繰入金に依存しているため、経営改善に向けた取り組みが必要である。

④企業債残高対給水収益比率
地方債の償還に努め、地方債現在高合計は減少したが、地方公営企業法適用に伴う打ち切り決算により年度内の給水収益が減少したため、前年度より増加している。類似団体よりも高い水準となっており、施設更新の際は、投資規模が適正であるかを見極めながら実施する必要がある。

⑤料金回収率
打ち切り決算に伴う給水収益の減及び、給水原価の増により、前年度よりも低い水準となっている。

⑥給水原価
地方債償還金の増及び年間総有収水量の減少により、増加している。

⑦施設利用率
類似団体よりも高い水準となっており、施設が効率的に利用されている状態である。しかし、人口減少等に伴い年々配水量が減少しており、施設更新の際にはダウンサイジングも含め検討する必要がある。

⑧有収率
積極的に修繕を行っているため、比較的高い水準を保っている。しかし、管路の老朽化に伴い漏水発生数が増加傾向にあるため、計画的に更新を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

古座川町簡易水道事業は、昭和40、50年代に建設した施設が多く、老朽化している。また、耐震化ができていない施設及び管路が多く、計画的に更新を行っていく必要がある。

全体総括

各施設の老朽化が進んでおり、漏水発生件数も増加傾向にあるため、管路等の更新を行わなければならない状況である。しかし、人口減少に伴い給水収益も年々減少しているため、更新に係る予算確保が課題となっている。